



CLOSE UP VOICE

東洋製罐 株式会社 豊橋工場  
工場長 松島 淳 さん

社会のニーズに応える  
暮らしに寄り添う「包む技術」

新型コロナウイルス感染症により、働き方や家庭での過ごし方など、我々のライフスタイルに大きな変化が訪れた。多種多様な食品や日用品の包装容器を製造する東洋製罐株式会社では、多様化する消費者ニーズに対応しつつ、環境問題への取組みにも邁進している。今回は、東洋製罐の根幹を支える「包む技術」と豊橋工場で製造する最新のフィルム容器について教えていただきながら、深刻化する環境問題への取組みを伺った。

人々の生活を支える社会インフラ企業としてさらなる飛躍へ

——貴社の事業内容を教えてください。

松島 ▼ 東洋製罐株式会社は、1917年の創業以来、容器の製造・開発を基軸に、金属・プラスチック・紙やガラスなど様々な包装容器を製造する総合容器メーカーです。具体的には日頃、皆様に馴染み深い

ペットボトルや飲料用缶、缶詰、レトルトパウチなど、食品関連の容器を中心に製造・開発をしています。購入された缶の表面やペットボトルの底をご覧ください。弊社の「ロ」マーク「CAN」が入っていたら東洋製罐が製造した商品です。  
日本国内13カ所にある工場の中で、豊橋工場はレトルトパウチをはじめとしたフィルム容器の製造を一手に担っており、約5000品種の製品を手掛け、年間19億袋を国

内外のお客様へ提供しています。その他は、海外向けの商品で、水分を吸収するパッケージも製造しており、主にエイズなどの検査薬のパッケージとして利用されています。弊社の商品が、表舞台に立つことはほとんどありません。しかし我々が生産する容器は生活に欠かすことのできない社会インフラだと自負しております。今後も皆様の生活をより豊かにしていく企業を目指したいと考えています。

——松島工場長のプロフィールを教えてください。

松島 ▼ 東洋製罐へ入社後、広島工場での勤務を経て、横浜の研究所で主にインキや接着剤の開発を経験してまいりました。11年前に豊橋工場へ赴任し、5年前に工場長に就任いたしました。豊橋は私が生まれ育った三重県に似ており、都会過ぎず田舎過ぎずで、とても住みやすい街だと感じています。また、明海町に工場を構えていることもあり、自動車関連の方と話す機会が多く、豊橋は自動車を中心とした工業や輸出入業が盛んな地域という印象を受けます。

——競合他社と比較した場合、貴社の強みを教えてください。

松島 ▼ 東洋製罐の強みは、長年研究・開発されてきた「包む技術」にあります。中でもフィルム事業は、世界初のレトルトカレーが1969年に誕生した際、従来の缶詰タイプからレトルトパウチへ変えられなかったと開発を進めたことが始まりです。現在では、国内で販売されるレトルトカレーの約半数に弊社の商品が採用されています。  
また、電子レンジで調理するパックご飯でおなじみの容器には、容器内の酸素をそれ自体が吸収する機能があり、保存性に優れた技術が施されています。こちらの原理はカイロと同じで、鉄の粉を混ぜた樹脂の容器が、酸素を吸って酸化鉄になりながら容器内の酸素を減らすことで、商品の劣化や菌の繁殖を防ぎ、長期保存を可能にしています。さらに、これに脱酸素剤が容器と一体となっていることで脱酸素剤の誤食を防ぐことができます。  
他にも、液体洗剤や漂白剤などの生活用品のパウチも特長的です。液体を密封する技術は非常に難しく、さらに塩素系漂白剤や界面活性剤などの厳しい安全性が求められる製品でも包めるのは弊社の強みと言えます。

INTERVIEW



東洋製罐 株式会社 豊橋工場  
豊橋市明海町3-60  
0532-23-5661

し、新たな無溶剤型ラミネートでは接着剤に有機溶剤を使用しないため、加熱の工程が不要となり、ガスの使用を抑えられ脱炭素に貢献しています。

また、豊橋総合動植物公園のんほいパーク様の「象主」のご縁もあり、社員教育の一環として講義を聞かせていただいています。環境問題の中でも自然界の動物に影響を与えているプラスチックゴミ問題について講義をしていただいております、社員の環境意識の向上に繋がっています。

弊社が取り扱う商品にはリサイクルが難しいものもあります。しかしながら、我々が製造した容器の自身の安全性を守り、安心して使っていただける容器を提供することが東洋製罐の使命です。その本分を忘れず、かつ、環境問題と向き合い、技術革新を持って解決へ導き、未来

へ進まなければならないと考えています。

——貴社が描く将来ビジョンを教えてください。

松島▼まだまだ志半ばではありますが、豊橋工場を世界に誇れるフィルム容器工場にしたいと考えています。社員の満足度向上と設備の充実化を図ることで、お客様へより高品質な商品をお届けできるようになると考えております。例えば、工場の自動化を図り、従業員の負担を軽減し、楽しく働ける職場づくりを実現して行きたいです。また、消費者ニーズに応えるため、取り扱い製品が増えていますので、更に工場を拡大したいと思っています。

そして、豊橋の皆様と一緒に成長できるような世界一のフィルム容器工場を目指します。どうか、皆様のご協力をよろしくお願いいたします。

——新型コロナウィルス感染症による社会活動の変化は、どのような影響をもたらしましたか。

松島▼非常に大きな影響がありました。大幅なライフスタイルの変化に、消費者の消費動向も著しく変わったため、製造ラインの変更を余儀なくされました。

最も変化があったのが詰替用液体洗剤です。コロナ禍以前であれば、首都圏の家庭では、車を運転しない主婦が、比較的軽い1回分の詰替用液体洗剤をスーパーで購入するのが主流でした。しかし、新型コロナウィルス感染症により行動に規制がかかり、まとめ買いやインターネットでの購入が増えたことにより、スパウトと呼ばれるプラスチック製のリキャップ可能な大型パウチを使用した詰替用液体洗剤が急激に求められました。インターネットで買うのであれば、持ち運ぶ必要がないため、数回分の大きいサイズで、しかも注ぎやすい機能があったパウチの液体洗剤に人気が集まったのです。これにより元々3〜4台あったスパウト付パウチの製造機を急ピッチで増設し、さらに静岡県内の工場も含めて20台が稼働するなど、対応に苦心しました。

透明タイプの子電子レンジ対応パウチも需要が伸びました。従来のレトルトカレーのパウチはアルミを使用

——ちなみに、現在の消費者ニーズで注目している点がありますか。

松島▼便利でタイムパフォーマンスがある商品ですね。外食が減り、自宅で料理する機会が増えましたから、先ほどの電子レンジでできるレトルトカレーや調味料ソースなど、短時間で美味しくできる便利な商品が求められていますし、今後は外食向け大袋製品も合わせて復調してくると思います。

新型コロナウィルス感染症に関しては稀なケースではありませんが、我々は消費者の動向を注視し、販売部や開発部とも定期的に会合を開き、社会のニーズに対して工場がどのような形で準備すべきかを考慮しています。今後は、ウィズコロナ・アフターコロナにおけるライフスタイルの変化にも注目していきたいです。

豊橋工場を世界に誇れるフィルム工場にしたいと考えています。

MAIN PRODUCTS



フロスパウチ

詰替用洗剤で注口部にレーザー加工を施すことで、抽出口部に特殊な材料やサポート部材を使わずにフィルムへの立体成形によって、はさみ不要の易開封を実現。



スパウト付パウチ

リキャップ可能なパウチ。洗剤等の生活用品用途向けタイプの他に、レトルト殺菌可能なスパウト付きパウチも取り扱っている。

酸素吸収性容器



容器内の残存酸素を容器自体が吸収する機能を持った、内容物の保存性に優れた容器。バリア層の内側に自社開発の酸素吸収材層を配置した容器。

CS(クールショック)パウチ

パウチに立体加工を施すことができる技術。ロゴや背景デザインにエンボス加工を施すことで、パッケージが表現するブランドの世界観に強い印象を加え、店頭でのアイキャッチ性を高める。



環境問題に取組み、持続可能な社会の実現に貢献

——SDGsに関して、貴社ではどのような取組みをされていますか。

松島▼東洋製罐はSDGsの目標年である2030年に向けて、様々な取組みを行い、地球環境に負荷を与えずに、人びとの幸せなくらいが未来へ受け継がれる社会の実現を目指しています。豊橋工場では、商品・技術・社員教育によって環境対策に取り組んでいます。

まず、豊橋工場で製造する液体

洗剤をはじめとした詰替用パウチは、プラスチックボトルの使用量削減に貢献しています。また、食品向け酸素吸収性容器の使用によって、長期保存を可能にし、フードロスの削減に繋がっています。

技術的な面ですと、他社に先駆けて導入している「無溶剤型ラミネート」が挙げられます。プラスチックフィルム容器において、2層以上のフィルムを貼り合わせる場合、以前は有機溶剤を使用し、その後ガスによって加熱して有機溶剤を飛ばすことで接着させていました。しか



豊橋総合動植物公園のんほいパークにてSDGsの研修を実施

